

課題

高齢者を取り巻く状況

- 高齢者数および要介護・要支援認定者数は増加している
- 要介護・要支援認定者の約6割は、生活に何らかの支障がある認知症高齢者
- 介護保険サービスにかかる給付費は増加傾向

実態調査

第7期の進捗状況

- 概ね計画どおりに進捗している

介護保険制度の見直しに関する意見（概要）

- 推進すべき事業は次のとおり
- ①介護予防・健康づくりの推進
- ②保険者機能の強化
- ③地域包括ケアシステムの推進
- ④認知症施策の総合的な推進
- ⑤持続可能な制度の構築・介護現場の革新

- 【健康づくり(介護予防)】**
- 健康寿命延伸のため、自ら（又は主体的に）取り組める身近な活動の場が必要
  - 高齢者向けの就労支援、雇用機会の拡大が必要
- 【生活支援】【地域】**
- 在宅介護を含め日常生活の中で、世代を超えて互いに支え合う地域づくりが必要
  - 介護保険や生活の困りごとなどを相談できる仕組みについて、さらなる浸透が必要
- 【介護】【認知症ケア】**
- 認知症施策推進大綱による「共生」と「予防」を両輪とした認知症への取組が必要
  - 認知症の進行を緩やかにするための予防の取組を浸透させることが必要
  - 認知症になっても住み慣れた家で暮らしていけるよう、地域の理解を広め、サポートする地域づくりが必要
  - 在宅介護を支援するため、介護者が継続的に介護できるための環境整備が必要
  - 介護サービスの質を維持し、介護人材を確保することが必要
- 【在宅療養】**
- 住み慣れた地域で最期を迎えることができるよう医療・介護の関係機関が連携し、包括的・一体的なサービスを提供することが必要
- 【住まい】**
- 地域で安心して住み続けられるよう多様な住まい方の提案が必要

地域包括ケアシステムについて

- この植木鉢図は、地域包括ケアシステムの5つの構成要素（住まい・医療・介護・予防・生活支援）が相互に関係しながら、一体的に提供される姿として図示したものです。
- 本人の選択が最も重視されるべきであり、本人・家族がどのように心構えを持つかという地域生活を継続する基礎を皿と捉え、生活の基盤となる「住まい」を植木鉢、その中に満たされた土を「介護予防・生活支援」、専門的なサービスである「医療・看護」「介護・リハビリテーション」「保健・福祉」を葉として描いています。
- 介護予防と生活支援は、地域の多様な主体によって支援され、養分をたっぷり蓄えた土となり、葉として描かれた専門職が効果的に関わり、尊厳ある自分らしい暮らしの実現を支援しています。



基本理念

互いに支え合い、自分らしくいきいきと暮らせるまち（仮）

基本目標

目標1 健康づくり（介護予防）

健康寿命を延伸するため、健康づくり（介護予防）と社会参加を推進します

目標2 生活支援

互いに支え合う地域づくりを推進します

目標3 認知症ケア

認知症ケアを推進します

目標4 医療

在宅療養の支援を推進します

目標5 介護

介護サービスの充実と人材確保を推進します

目標6 住まい

安心して生活できる住まいの確保を支援します

基本施策

- (1) 多様な健康づくりの推進
- (2) 健康管理と介護予防の支援
- (3) 社会参加・生きがいづくりの促進
- (4) 高齢者の就労支援

- (1) 安心・見守りネットワークの拡充
- (2) 住民どうしで支え合う生活支援サービスの充実
- (3) 相談・支援体制の充実
- (4) 避難行動要支援者対策の推進

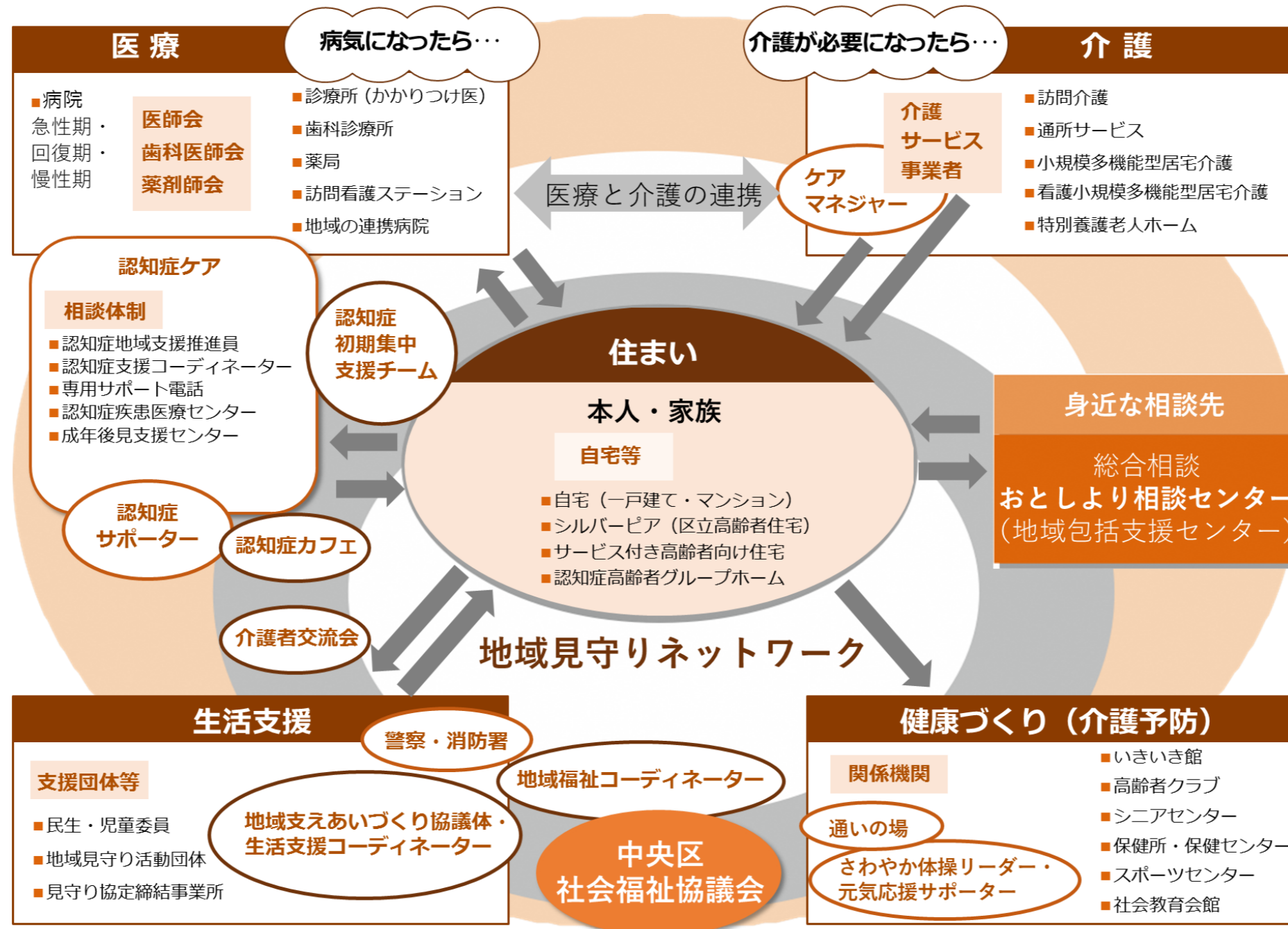
- (1) 認知症の相談・支援体制の充実
- (2) 認知症に関する普及・啓発の推進
- (3) 認知症の人にやさしい地域づくり
- (4) 権利擁護の推進

- (1) 安心・安全な医療の確保
- (2) 医療と介護の連携による在宅療養支援の推進
- (3) 在宅療養の普及啓発

- (1) 在宅生活を支えるサービスの充実
- (2) 家族等介護者への支援
- (3) 介護保険サービスの質の向上
- (4) 介護人材の確保

- (1) 安心・安全な住まいの整備促進
- (2) 快適な住まいと住環境を確保するための支援

中央区の高齢者施策における地域包括ケアシステムのイメージ図



出典：中央区高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画より (一部加工)